



# 風流

第三十二号



「愛川国際交流クラブ」  
多文化共生で皆が楽しく暮らせる  
まちづくりを目指す

愛川国際交流クラブ 会長  
佐藤 茂



## ■愛川国際交流クラブの発足

人口に占める外国籍住民の割合が全国的にも多い愛川町で、生活習慣や文化の違い、そして日本語もままならぬ外国人住民たちの生活に少しでも役に立ちたいと一九九六年に発足しました。日本語教室を中心に、イベントなど、多文化共生に向けた活動をして一九九年を迎えています。

愛川町は、神奈川県北西部に位置し、厚木市、相模原市、清川村に隣接し、人口四万一一七八人、外国人住民二一八八人（二〇一五年一〇年一日現在）、人口比率五、一四％となっています。国籍別では三八か国、ベルー、ブラジルなど中南米系が多く約半数、近年は、フィリピン、タイなど東南アジア系住民、そして中国、台湾と続きます。

## ■内陸工業団地の誘致で外国人が来日

この外国籍住民の割合が多い背景には、内陸工業団地があります。一九六六年に旧日本軍の相模陸軍飛行場の跡地を利用したもので、当時の高度経済成長期に沿岸部の公害への対応が課題となり、内陸部工業地帯の建設の機運が高まる中、飛行場跡地であった平で広大な土地は条件に有利で、当時の県知事と町の誘致委員会などの努力で工業団地は建設されました。当時は、移転企業の従業員と地元の人々で町の人口増となりました。その後、バブル経済期で人口不足となり、それを補うため、南米系の日系人が来日し、町にも移住するようになりしました。一九八七年の愛川町の外国人登録者は二二〇人でしたが、一九九一年には、九七一人と増加し、現在に至っています。

## ■日本語習得から「コミュニティの住民へ

愛川国際交流クラブの活動は、当初は外国籍住民を対象にした日本語教室が主でした。日本語を習得しないまま来日する人も多く、日本語教室は外国籍住民からだけでなく、彼らを受け入れる側の企業からも歓迎されました。また、生活習慣の違いから、ゴミ出しなどのルールの問題も顕著になってきました。こうした問題の解決には、外国籍住民とのコミュニケーションは欠かせず、彼らの日本語習得は重要な課題と考えるようになりました。そして外国籍住民の自治会未加入が問題になり、地域コミュニティの住民として自治会に入り、町の広報を受け取り、情報を得るところから始めることに併せ、町行政とともに、広報誌の翻訳をする活動もしてきました。現在では、地域の防災、防犯への取り組み、マイナンバー制度、国勢調査の周知など、世の中の変化に合わせてクラブの活動も柔軟に対応していくことが大切だと考えています。

## ■相互理解のためのイベント開催

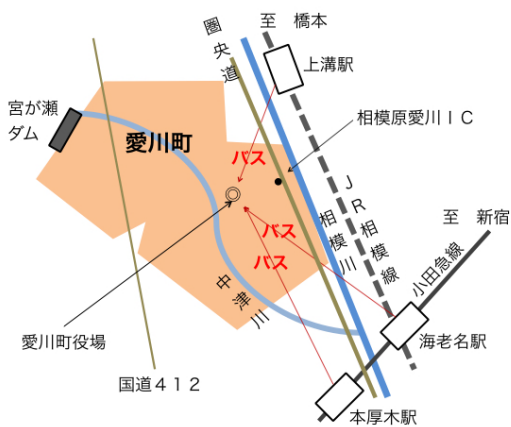
毎週開いている日本語教室には、多くの外国籍住民が参加しています。夏まつりなどの地域のイベントでクラブの活動を積極的にPRしてきた成果と思います。広報に力を入れたきっかけは、当初、日本語教室を開催しても住民にも行政にも認知度が低い中で、どうしたら外国籍住民に日本語教室の存在を知ってもらえるかを考えたからでした。PRのためにインパクトのあるイベントを企画し、町文化会館において在日米軍座間キャンプから、在日米軍楽隊を招致し、複数国からの民族舞踊とで五〇〇人収容の会場を満席にし、好評も得たりしました。その他、町で毎年実施している「愛川町勤労祭野外フェスティバル」

に国際屋台村を出店し、各国の料理を提供するなど、会の活動のPRをするだけでなく、様々な国籍の住民の親睦を深めようと努力してきました。

当初は商工会の地域活性化事業として単年度計画として実施した国際屋台村でしたが、当時の町長の依頼により継続することとなりました。こうしたイベントへの参加は、本来の活動である日本語教室とは異なるなどの意見もありましたが、何とか調整しながら実施してきました。

## ■今後の課題

前述のアジア系住民の増加に対応するため、教室のあり方を考えています。多文化共生を掲げる団体として、さらに多くの言語にも対応していきたい。国籍の異なる外国籍住民同士の互いの交流を深めていきたい。また、運営にあたりボランティアをどう確保するかなどの課題もあります。活動をしていますと、やはり、世の中は色々な形でつながっていると思います。この国際交流という分野は、まだまだ努力していく必要があるという認識です。国籍に関係なく、皆が楽しく暮らせるまち、そういうまちづくりをめざしています。





タンザニア大使館

HE. Dr. パチルダ S. プリアン  
駐日タンザニア大使

みなさまとお会いでき、とても楽しかったです。  
みなさまが、コーヒー・紅茶・スパイス・カンガといったタンザニアの物産、またティンガティンガやマコンデ彫刻などの芸術に興味を示してくださり大変嬉しく思いました。プレゼンテーションで理解を深められ、積極的に質問してくださったこと、そしてタンザニア産の紅茶やコーヒーと軽食を楽しんでくださったことも印象的でした。このイベントによりみなさまの我国への理解が深まり、そして日本におけるタンザニアのイメージを高めることができたことを確信しております。

駐日タンザニア大使として、日本からのタンザニアへの投資、特に農業・エネルギー・インフラ・運輸・観光・鉱業・製造業・サービスといった面への投資が増えていくことを願っています。タンザニアへ投資する利点は安定した政治環境、強力な経済パフォーマンス、数多くの投資機会、魅力的な投資インセンティブ、多彩な民間企業、ビジネスに賛成的な政府、巨大な地域市場、世界市場の一部への優先的アクセス、そして東・中央・南部アフリカへのゲートウェイとなり得る地理的位置にある、ということにあります。

また観光の面でも、UNESCO世界遺産に登録された場所が数多くあり、人気の観光スポットとなっています。このイベントを実現させるため様々な努力と貢献をしてくださったIACの皆様には大変感謝しております。これからも一緒に日本とタンザニアの友好関係を深めていけたらと思います。

Asante sana (ありがとうございます)  
Karibuni Tanzania!! (タンザニアへようこそ!!)

素晴らしい機会に感謝

中路理恵子

タンザニア大使館に入ると、目にも鮮やかなティンガティンガの絵、躍動感あふれるマコンデ彫刻。そして、素敵な民族衣装の女性。それが、皆様全員の外交官でいらっしやる。まぶしさを覚える素敵な空間です。また、大使から語られる、豊かな自然と歴史あるすばらしい文化やマナー。特に、敬語をはじめと年長者に敬意を払い、礼儀を重んじる文化に、アフリカの遠かった国が一足飛びに近しさを感じました。

そして、饗されたお茶とお料理も、大変おいしくいただきました。

二つの頂上をもつキリマンジャロを有するタンザニアでは、英国植民地時代を経てコーヒー、紅茶が栽培されていますが、基本的飲まれるのは紅茶が多いとのこと、スパイスティーは絶品でした！

一緒にいただいた、ティーフーズは、蒸したお芋やカボチャ、あげた豆鮭をはじめ、予想に反して辛いものはなく、懐かしさすら感じる優しい味の数々。

また、古くからの香料貿易の拠点としてインドからの影響も受けているのをサモサなどのメニューから強く感じました。

タンザニアの紅茶文化をもっともっと、深く勉強したくなりまし。

すばらしい機会に感謝をいたします。大使をはじめ、タンザニア大使館の皆様、ありがとうございます。



▲白井一真さん  
観光担当官



▲Ms. Scolla J. Kavishe  
(スコラ・J・カヴィシエ)  
財務担当官



▲駐日タンザニア大使  
H.E. Dr. Batilda S. Burian  
(Dr. パチルダ S. プリアン)



◀イベント前に笑顔でカンガ(タンザニアの民族布)の準備。  
左から 田中恵美さん・大使秘書、  
Ms. Bernadetha F. Malima(ベナデタ・F・マリマ)全権公使、  
Ms. Agnes A. Luhwago(アグネス・A・ルワゴ)事務官



写真：藤倉明治 (IAC会員、写真家)

▶マンダジ(ドーナツのような揚げパン)、ローストチキン、サモサ(鶏肉の春巻き)、ゆでたさつまいも、かぼちゃ、ピーナッツ、小魚のフライ、フィッシュボール、マハラギ(豆を煮たもの)、チャパティ(薄焼きのパンのようなもの)ドリンク類：ジンジャーティー、スパイスティー、キリマンジャロコーヒー、トロピカルジュース

IACに感謝!

小野 紫

(IAC会員、パーソナリティ)  
正直云って私は何年もバスポートを使っていない。だからといって他国に興味がないわけじゃない。むしろ知る気満々(笑)。観光したいというよりも、その国の空気を吸いながら、人々と雑踏にまぎれてみたい。そんな妄想がふくらんでしまふ。もしも行けるならば、その国が背負ってきた歴史や誇るべき文化、はたまた民の衣食住にどこまで自分は食らいつけるのかというハラハラドキドキ感を求めてしまふ。

私は以前報道に携わっていたので、ニュースを通して諸外国をみるのが多かったせい、政治・経済がどのように動いているかを探るのが先。そのようなところもあった。しかし、それだと、その国の素晴らしいところを見逃してしまっていたように思う。IACの活動に感謝するのは、そうゆう見逃していた部分を補ってくれるイベントを提供してくれるから。

出会いはIACの日本民族舞踊団の公演の進行役を私がつとめたご縁で、日本の舞踊からはじまり、遠い国の舞踊、音楽、衣装、工芸品、そして食べ物。IACのイベントを通して、文化の違いを感じたり、意外似ていて驚いたり発見だらけである。忘れちゃならないのは、いつもその真ん中には彼の国の人々がいること。彼らの「わたしの母国を知って欲しい」という熱意にいつも圧倒される。

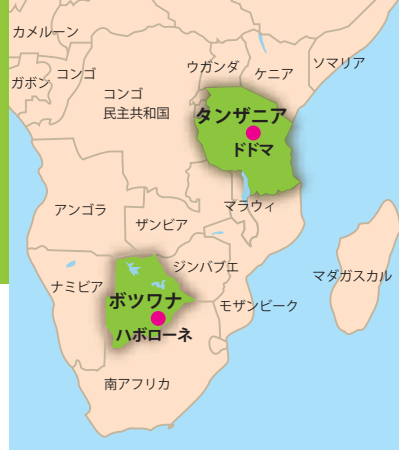
バスポートを使わなくてもハラハラドキドキはそこにある。



日本に居ながらにして各国の家庭のおもてなしを体験する!そんなIACだからこそ実現できる新シリーズが好調な滑り出しをいたしました。

各国のご家庭で普段お客様を迎える際のお茶、お菓子、茶器、その作法など実際にお客様として大使館を訪問して体験したい。そんな、ご要望でスタートしたこの企画。大使館でお聞きするそれぞれのお国自慢の熱く誇らしげなプレゼンテーションからは、新たなその国の魅力がみつかります。また、懇親会としても外交官と直接話し、参加者同士の交流の時間も素敵です。

それぞれの会の参加者とホスト役として迎えてくれたタンザニア、ボツワナの両大使館の感想をご紹介します。



また、IACの皆様と一緒に、マグイニヤ(揚げパン)、ディパバタ(マフィン)、モルラフルーツのお菓子やジャム、ナッツなどのボツワナのスイーツを楽しみました。ボツワナのお茶は日本の緑茶にも似ていますので、美味しく飲んで頂けたようです。これからもIACと連携して、人的交流を深めていくことを期待しています。皆様のご協力なしに、あのような盛会はなかったことでしょう。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

- モスクジュラネ: 咳、風邪、喘息、頭痛を和らげるハーブ茶
- レンガナ: 気管支炎、咳、風邪、寒気、消化不良、腹痛、胃もたれ、痛風を和らげるお茶
- センガパリレ: リウマチ、関節炎、高血圧、腎臓・胆嚢・肝臓の不調、胃腸障害、皮膚病を和らげるお茶
- モスクド: 咳、風邪、気管支炎、発熱、インフルエンザ、麻疹、肺炎、喘息、偏頭痛、ストレスを和らげるお茶

先日ボツワナ大使館で開催されたお茶会には、多数のIAC会員の皆様にご参加いただき、厚く御礼を申し上げます。出張中で出席がかなわなかったンカテ大使も、皆様の協力に感謝の意を表しています。IAC会員の皆様と共に過ごした時間は、私達にとって大変貴重な経験でした。ご参加された方々には、ボツワナのお茶についてのみならず、観光や文化についても理解を深めていただけたことと思います。お茶会では、数種類のボツワナのお茶を下記のとおりご紹介しました。



### ボツワナ大使館



▲Marula という果実のジャムマフィンに塗って頂く。



▲ファットケーキ(揚げパン)と同じ生地で作られたディパバタ(ボツワナ風マフィン)



▲Ms. Sista Oabile Mabeo (シスタ オアビレ マベオ) 大使秘書



▲Mr. Mmolotsi Michael Tsae (モロツイ マイケル ツァエ) 一等書記官



▲量昌子さん 秘書・観光担当



▲ジンジャードリンク(作って2~3日おいてアルコール分が少し出るとおいしい)



▲ボツワナのお茶

▶Marulaのお菓子 日本のお茶にも合いそうな味



ボツワナに対する前知識は殆どない状態だったので、それが逆に功を奏したのか楽しいカルチャーショックの連続で、ボツワナに行ってみよう!という気持ちで素直に高まった二時間でありました。前半はスライドショーによるボツワナの紹介でしたが、これが新鮮で目が離せませんでした。私は管理栄養士で料理研究家という職業柄、その国の食文化に興味関心は尽きないのですが、一方で農大卒ということもあり、国々の自然にも興味があります。ボツワナのサファリツアーは大切な観光資源である豊かな自然や動物たちの姿を損なわないよう配慮しながら観光客に提供しており、近年人気が高まっているというのも頷けます。このスライドショーでいっぺんにボツワナのファンになり、一生のうち一度は訪れてみたい国になりました。またお茶タイムでは、Marula(モルラ)というボツワナの果実で作られたお菓子やジャムを頂きました。今までお目にかかったことのないものですが、どこか日本人も懐かしく感じる様な味。とても美味しかったです。その他ジンジャーを微発酵させた飲み物や「悪魔の爪」という名前の植物の根のハーブなど、もっと詳しく知りたいことばかり。あつという間の二時間でした。これからも皆さんと交流し、楽しみながら参加させて頂きたいと思えます。

### ボツワナ、訪れてみたい国に!

高田桃子 (IAC会員、管理栄養士)



写真: 人物 藤倉明治、メニュー 高田桃子

**IACで世界とつながる活動を一緒にしませんか。年会費 5,000 円です**

<official site>  
http://iactokyo.jp  
<facebook>  
http://iactokyo.jp/facebook/  
<web-shop 世界の工芸品>  
http://iactokyo.shop-pro.jp

Tel & Fax 03-5426-2047  
✉ info@iactokyo.jp

**事務局便り**

▶「大使館でお茶を」の企画は、セルビア(11月に既に開催)、アゼルバイジャン(12/17開催予定、満員御礼)です。1月以降の予定はFacebook(どなたでもご覧いただける設定です。)でお知らせします。お気軽に電話でのお問合せもお待ちしています。

▶2016年、新事業も企画中です。引き続き皆様のご支援、ご提案をお待ちしています。

(事務局:金屋輝美)

▲小野さん企画・演出・出演の朗読ライブ「コエトオト」はコエ(語り):小野紫、オト(音楽):伊藤孝喜(ミュージシャン)による朗読 SHOW です。今後、各国大使館の協力の朗読ライブも企画したい。

写真提供:小野紫

▲メキシコ最大の祭り「死者の日」をメキシコ大使館でもお祝い。日本のお盆に似ているが、明るく死者を迎えるのがメキシコ流。ガイコツもお茶目。IACも招待を受け、小野さんも出席。



## こんにちは、大使館【第21回】ウズベキスタン

# 安倍首相が2015年10月公式訪問、カリモフ大統領と会談 日本人建設のナボイ劇場を訪れる 経済協力の拡大、強化を確認 文化面でも交流拡大 仏教はウズベキスタン経由で日本に ウズベキスタンは中央アジアの大国



◀駐日ウズベキスタン共和国大使館  
二等書記官  
HASANOV Askarali  
(ハサノフ アスカラリ)さん

IACの文化交流の強力な  
パートナーは、各国在日大  
使館です。それぞれの国に  
ついて、「食」や「民族芸術」

のシリーズとは別の切り口でこの紙面から紹介します。  
このコーナーは引き続きIAC会員の取材で構成します。ご興  
味がある方は、事務局にお問合せください。

東京港区高輪の高松宮邸から道を隔てた閑静な住宅街の  
一角にあるウズベキスタン大使館。

対応して下さるのは二等書記官のハサノフ アスカラリさん、  
滞日2年余りの30代のイケメンの若手外交官だ。

10月末、安倍首相がカリモフ大統領の招待を受けてウズベ  
キスタンを公式訪問しました。経済協力での合意などそれなり  
の成果があったと報じられています。2006年の小泉首相の首  
相初訪問以来2度目です。

——ウズベキスタンの国民はどのようにこれを受け止めていると  
ご覧になっていますか。

書記官「我が国民は日本は政治的、経済的、技術面、知的財産  
面などにおいて極めてポテンシャルの高い国だと受け止めてい  
ます。その日本とウズベキスタンの間の長い信頼関係が首相訪  
問で一層強固なものになったと思います」

——安倍首相は第二次世界大戦の日本の敗戦後当時のソ連によ  
ってウズベキスタンに連れて行かれた日本人捕虜たちが建設した  
首都タシケントのナボイ劇場を見学しましたね。劇場は貴国の大  
地震にも耐え抜いて、日本人の仕事ぶりの確かさを伝える建物と  
して今も大事に使われていると聞きました。

書記官「ナボイ劇場はこの程改修を終え、お披露目式に安倍首  
相も出席されました。劇場はウー一日友好関係に於いて重要な  
役割を果たしています。かつては劇場の銘板には、一日本人抑  
留者によって建設された一、と刻んでありましたが、今では、一



◀カリモフ大統領と安倍晋三首相  
(写真提供：  
駐日ウズベキスタン共和国大使館)

運命によってこの地に滞在された日本人によって一と書き換え  
られました。両国は直接戦ったわけではありません」

——両国の経済協力関係は相当深まりつつあるようですね。

書記官「日本はウズベキスタンに対する最大級の投資国の一つ  
です。日本は鉄道建設、改修、発電所のパワーアップ工事、空  
港建設、石油精製プラント建設などで多くの投資を行い、更に  
日本企業が施工もしています。経済だけではなく。文化  
面でも、日本国内でウズベキスタン舞踊、音楽などの公演を多  
数行っています。日本の皆さんに是非ウズベキスタン文化の一  
端に触れていただきたいものです。歴史的に見ても、日本の仏  
教はインドからウズベキスタンを經由して中国に伝来し、さら  
に日本に伝わった——私達はこう理解しています。ウズベキス  
タンは東西文明の十字路なのです」

——ウズベキスタンは中央アジアの大国ですね。

書記官「ウズベキスタンから出たチムールは中央アジア、インド  
を中心に一大帝国を築きました。今は人口約3,100万人、中央  
アジア全体の6割を占めています。石油、天然ガス、鉱物など  
の資源にも恵まれています。日本の資金、技術とさらに結びつ  
けばより発展が期待されます」



▲置物のモチーフは  
「アミール・ティムール」

文：山下靖典 (IAC顧問)  
写真：藤倉明治 (IAC会員)



▲サマルカンドの「レギスタン広場」

### 広告

**沖縄の精霊のおはなし。**

沖縄の精霊  
キジムナーと男の子  
の友情のお話。

タイトル・作者  
「キジムナーと  
カミジュ」  
たまもと さゆり

ご購入はコチラから▼  
<https://www.o-kyohan.co.jp/>

**不思議大好き**

ソフィアは中近東、中央アジア、  
アフリカの旅行を得意としています。

不思議大好き直通電話 **TEL: 03-5292-7858**  
HP▶<http://sophia-net.com> **FAX: 03-5272-6020**

**ソフィア株式会社** 東京都知事登録旅行業 第3-4240  
東京都新宿区大久保 1-1-45

**一緒に実現する  
IACの文化交流**

- 会員として活動に参加してください。  
年会費：個人5千円 法人3万円(一口)
- 「風流」の同行取材にご協力いただけ  
る方を募集しています。
- 広告を募集しています。

「風流」やIACホームページへの広告で、貴社、貴店の  
PRとともにIACの活動をサポートしてください。

